

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年														
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月 ~1日	5月 ~8日	5月 ~15日	5月 ~22日	5月 ~29日	6月 ~5日	6月 ~12日	6月 ~19日	6月 ~26日	7月 ~3日	7月 ~10日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	6	10	23	10	15	14	12	38	35	35 (36)	25
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	20	7	20	14	27	24	24	27	15	4	6
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0 (1)	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	3	0	0	1	1	2	0	1	0	2 (3)	2
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	4	5	6	6	11	4	2	8	8	4 (5)	7
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	7	6	5	6	4	3	2	2	1	3	4
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0 (1)	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
* 前回のその他の1件は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第27週(7月4日~7月10日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7			3		2		2
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2	1				1		
四類	6	日本紅斑熱	2			2				
		レジオネラ症	3			1		1		1
五類	12	アメーバ赤痢	1					1		
		カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1							1
		侵襲性肺炎球菌感染症	1					1		
		梅毒	9	1				7		1
新型インフルエンザ 等感染症	4,028	新型コロナウイルス感染症	4,028	436	259	327	45	1,898	409	654

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第27週に1,898件の報告があり、前週の約1.4倍に増加しました。新規感染者数は全国的に増加から急増となっており、オミクロン株BA.5系統への置き換わりも進んでいます。マスク着用、3密回避、換気などの感染対策を徹底しましょう。

2 RSウイルス感染症

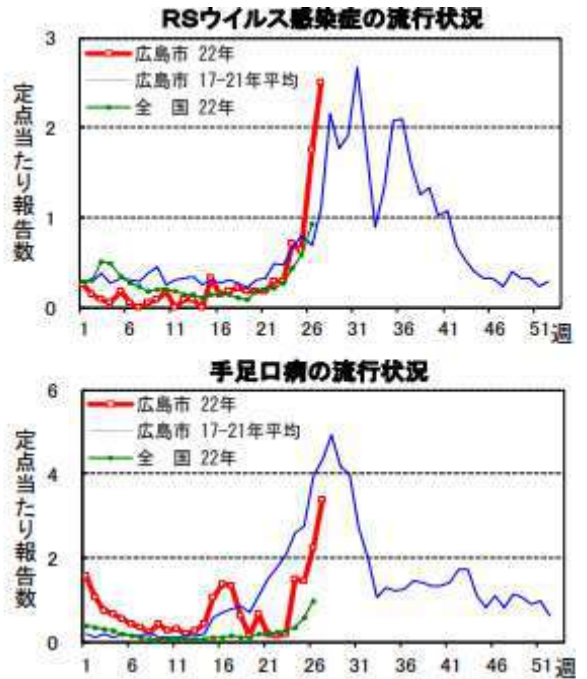
定点当たり2.50人の報告があり、増加が続いています。生後数カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、咳等の呼吸器症状がある人との接触を避けるなどの注意が必要です。おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒、手洗いの励行など、感染予防対策を心がけましょう。

3 手足口病

定点当たり3.38人の報告があり、増加が続いています。手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

4 ヘルパンギーナ

定点当たり0.75人と、前週と比べて大きく増加しました。



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	1	0.03	-		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.13	
小児科	咽頭結膜熱	9	0.38	0.66		眼科	RSウイルス感染症	60	2.50	1.10	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	22	0.92	1.51	▲		急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	144	6.00	4.36	▶	基幹	流行性角結膜炎	3	0.38	0.85	
	水痘	-	-	0.21			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	81	3.38	4.33	▲		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.14			マイコプラズマ肺炎	-	-	-	
	突発性発しん	7	0.29	0.38			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	18	0.75	1.09	▲		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	▲	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	▲	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	▶	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	▶	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	58	20歳代、50歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	8	20歳代・O157
4	レジオネラ症	1	18	60歳代
5	アメーバ赤痢	1	2	50歳代
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	3	10歳未満
5	梅毒	7	159	20歳代・4人、50歳代・3人